

故・亀岬嘉子先生に、二年生の十月から卒業までの四年六ヶ月間、担任して頂いた六年一組のクラス会の名称です。残念ながら亀岬先生は、令和二年九月、九十五歳でお亡くなりになりましたが、「岬会」は続いています。卒業時的人数は、男子二十二名、女子二十名でした。

故・亀岬嘉子先生に、二年生の十月から卒業までの四年六ヶ月間、担任して頂いた六年一組のクラス会の名称です。残念ながら亀岬先生は、令和二年九月、九十五歳でお亡くな

りになりましたが、「岬会」は続いています。卒業時の人

岬会

亀岬嘉子先生を偲んで

一九五一年(昭和二十六)卒 一組



世田谷区深沢 4-10-1
東京学芸大附属世田谷小学校内
青山附属同窓会

<https://aoyama-dosokai.jp>

青山附属同窓会 検索

発行人 森 昭彦
編集人 齋藤研一

その頃は、朝夕の登下校で通る校門で、正面玄関内に掲額されていた天皇陛下、第一師範学校の校長、附小の主事(校長)先生の写真を遥拝していました。

戦前の学級編成は、男子組

が二クラス、女子組が一クラスでした。昭和二十一年十

月に抽選で組替えが行われ、

新時代のスタイルになり、男女共学組が二クラス、男子組

が一クラスとなりました。

私達は、昭和二十年四月に

東京第一師範学校男子部附属

国民学校に入学するはずでし

たが、第二次世界大戦が激し

くなり、学校は閉鎖されまし

た。地方へ疎開した人、在京

の人、それぞれ住んでいた所

の小学校に籍をおきました。

八月十五日の終戦で、二学

期の初めから、附小一年生と

島を出て、教育者への途を進

て学んでいたぐらいです。
戦後数年が経ち、世情は徐々に落ち着き、明るさを増してきました。学校生活でも日々の活動や行事面が多岐にわたるようになります。



終戦後わずか一年二ヶ月後の昭和21年10月誕生の新クラスの記念写真です。世情、復興ままならない中で、先生も生徒も、ひたすら前を向いてスタートした時の貴重な写真だと思います。

オンラインで同窓会

一組「しらかばの会」

一九七九年（昭和五十四）卒

一組 小林（森園）哲子

コロナ禍が始まって一年目の秋（二〇二〇年十一月）、私達は、オンラインでクラス会を開催しました。担任であった岡田和雄先生が米寿を迎えられ、また、瑞宝双光章を受勲されたという、二重のおめでたい出来事がきっかけでした。

オンラインでの開催を岡田先生は快諾くださいり、早速 Zoomをインストールして

何度か「予行練習」までして臨んでくださいました。米寿を迎えた先生が、新しいITツールをいとわず、積極的に試してくださいましたことは、あらためて感謝と深い尊敬の念を覚えます。

当日はサプライズゲストとして、伊東富士雄先生と林四郎先生もお招きし、皆で岡田先生のお祝いをしました。中には、ご両親と三人で画面に並んで参加した人、それを見て、同居しているお母さまを



ば小学校時代の教室と変わらない風景が再現されていたことに大笑いました。ご高齢の先生方や保護者の方にも、感染の心配なく参加していた

だけで、通常のクラス会ではなかなかできないことも実現できたように思います。

制約のある中でも、恩師や旧友との交流を、今後も新しい形で模索していくたらどう思っています。

オンラインでは、複数で同時に話すことが難しいので、どうしても声の大きい？女子達ばかりが多めに話していました。い、男子達はそれを辛抱強く優しく見守る、という、思え

旧友との交流を、今後も新しい形で模索していくたらどう思っています。

こうした多様な経験を経て、岬会のメンバー一同、中学生への途に進むことができました。改めて、亀岬嘉子先生に、心

せん。給食の献立は、コッペパンと脱脂粉乳のミルクに、おかげが一品ぐらいでした。

この脱脂粉乳が独特の味で、苦戦しましたが（正直に言うと、まづかったです）、それもまた良き思い出です。

岬会のメンバー一同、中学生へ六年三月に退任され、生涯中町小学校校長に栄進されました。五年間主任の後、昭和六十年三月に退任され、生涯教育界で活躍されました。

（河村和美・山本眞也）

（一頁から続く）

始まったことも、忘れられません。岬会の会員は、これらも元気で先生の思い出を語り合いたいと思います。

なお、亀岬先生は、昭和五十年三月まで附小に勤務されました。その後、世田谷区の小学校の教頭を経て、世田谷区立

オンラインで同窓会

三組「いわばの会」

一九七九年（昭和五十四）卒 三組 佐藤（小暮）順子

等々力（尾山台駅そば）にあるおしゃれな歯科医院、ケイ

DENTAL CLINIC

ことから、私にとつての憩いの場になっています。

ある日、河村院長先生から、「一組はオンライン同窓会をやつて盛り上がった」という情報をキヤッチ。先生も含め

て、全員がZoomを使用してリモートで懇親したとのこ

伴先生の卒寿を祝して、学士会館の大広間を貸切り、伴先生、菅原先生、伊東先生と、母親十二名、生徒十九名、計三十四名が集まりました。

卒業記念に頂いた卒業式の様子を録音したLPを皆で聞いたり、佐々木（八十島）亜抄子さんの伴奏で、藤棚の歌と校歌を合唱したりしました。

会終了後、ご自身の運転でお帰りになる伴先生を、私たちが心配そうに見守っていると、運転席の窓を開けて「みんな、気をつけて帰りなさ

から御礼と感謝を申し上げます。岬会の会員は、これからも元気で先生の思い出を語り合いたいと思います。

なお、亀岬先生は、昭和五十年三月まで附小に勤務されました。その後、世田谷区の小学校の教頭を経て、世田谷区立

中町小学校校長に栄進されました。五年間主任の後、昭和六十年三月に退任され、生涯教育界で活躍されました。

（河村和美・山本眞也）

着任のご挨拶

校長 及川 研

皆さま、どうぞよろしくお願ひいたします。この春から校長となりました、及川でございます。

子どもの外遊びと発育発達の関わりについての研究や、遊び場づくり、子どもと接する大人のふるまい方である「子育ちワーク」などに、これまで携わってきました。近年は、運動の指導方法を、運動学の知見、子どもの心理や子育ちワークの観点から考えることがテーマになっています。

また、選手・監督など「ガチ」の野球歴が五十年になるのですが、「ここでは一当たり前を疑う」ことを提案し、送りバントをすると得点期待値が下がってしまう、バットは最短距離で振らない方がよい、などを研究と実践で確かめてきています。この視点は野球以外にも応用でき、小学生に跳び箱を跳ぶことを教える際に「助走をしない方がよい（着

地をまず最初に練習します）、泳ぐのは背泳ぎからが怖くない、などの運動指導を考えることに繋がっています。

さて、世田谷小学校では今年度から新しい教育体制の本格的に動き出しました。

異年齢が集い家族・きょう

だいのような関係で活動する

Home' Laboratory' Class

が本格的に動き出しました。

異年齢が集い家族・きょう

だいのような関係で活動する

Home' 自分の興味・関心にそつ

て自分らしく対象や活動を求

めて進める Laboratory' そ

れらを通じて培われる「主体

的」の「まわりの人に向かう姿勢」

を持った、教員がねらいとし

かけを持つて提供する Class

の授業で学んでいく、となれば理想的であるうと、私は感

じております。

たとえば Home' では、低学

年児童の遊び方に助言する中

学年児童と、その助言をそば

で聞いて「それでは不十分な

んだけどな」と思いながらも



い！」の一言。一同「はい、わかりました！」と深々と頭を下げてお見送りしました。

その後、同窓会を開催しようとと思っていた矢先にコロナが蔓延。当分開催ができない

いと思つていた時に、一組のオンライン同窓会の話を聞い

たのです。「三組としてもこのままではいけない」と、あの

毎年の組対抗運動会の闘志が沸き上がり、三組のLINE

グループに声をかけたところ、すぐに日程が決りました。

心配だったのは、先生方がリモート対話ができるかとい

うことでした。が、一番若い伊東先生からは「もちろん大丈夫！私はFacebookも

やってるし、デジタル系は任せせておいて！」と、菅原先

生は、「ちょうど200mを学ぼうと思っていたところ。当

日までに孫に習つておく」と。

伴先生（九十五歳）は残念ながらオンラインでの参加はできませんでしたが、私達にメッセージを用意してくださいました。

こうして二〇二〇年十二月に開催された三組初のオンライン

イン同窓会は、遠くはパリから参加や、ご家族を画面越しに紹介したり、自らの活動を動画で説明したりするなど、リモートならではの同窓会となりました。

リアルでもリモートでも、形態が異なれど三組の先生と生徒たちとの会話は変わりなく、懐かしくて楽しいひと時でした。次回はメタバース上での開催なるか。その前にコロナが終わり、安心してリアルで集える日々を心から願うばかりです。



附属小学校の近況

副校長 越後 佳宏

2022

同窓会の皆様、いつも附属小学校をあたたかく見まもりご支援をいただき、ありがとうございます。

開校から百四十七年目を迎えました。

文部科学省から指定を受けている「研究開発学校」では、「学びを自分でデザインする子」の育成に向けて三年次を迎える。昨年度から実施しているLaboratoryの活動（三～六年生）に加え、本年度は一～六年生が各五～六人で編成されるHomeの活動、学年ごとに行われる教科学習Classの活動（一、二年生は学級担当、三～六年生は教科担当）を実施しています。

Homeの活動では、一年生から六年生が一緒に生活をします。発達段階の違いが前提としてあるので、違うことが当然であり、その中で自分の

役割を考え、他者を認めながら生活することで公共性を育んでいこうと考えております。

七月十一日（月）～二十一日（木）には、三つのHomeずつ一泊二日で、山梨県の富士吉田市にある「富士研修所」へ宿泊活動を行いました。

令和五年二月十八日（土）には研究発表会を行い、研究の一端を発表する予定です。



【学校長が代わりました】

この三月、令和二～三年度の二年間、本校の校長を務められた大井田義彰先生が、大学に戻られました。四月一日から新校長として及川研（おいかわけん）先生をお迎えしました。

大井田先生は、かつて平成二十一年度から平成二十三年

度の三年間にも本校の校長を務められ、通算五年間本校の

校長を務められました。この

二年間は、コロナウイルス感

染症対策にご尽力いただきま

した。今後の更なる活躍を

お祈りしています。

新校長の及川先生は、昨年まで東京学芸大学芸術・スポー

トでもやさしい人柄で、「か

おり先生」と子どもたちからも慕われておりました。先生

とお話しすることで癒された

子どもは多かったのでないで

しょうか。算数・数学をご専

門とされ、子どもとともにつくる授業を目指され、日常生活とのかかわりを大事に学習

を進められていました。また研究部長として現在進めてい

る研究開発学校の礎を学校の中核となつて育つていく様子を研究されています。小学校から学生時代は野球少年、その後は指導者として野球が大好きなスポーツマンであります。附属小学校に新しい風を吹き込んでくださることと思います。

【教員の異動について】

☆お送りした先生
▽永山香織 先生

平成二十三年に本校に赴任され、十一年間本校に在職さ

れました。

とてもやさしい人柄で、「か

おり先生」と子どもたちからも慕われておりました。先生

とお話しすることで癒された

子どもは多かったのでないで

しょうか。算数・数学をご専

門とされ、子どもとともにつくる授業を目指され、日常生活

とのかかわりを大事に学習

を進められていました。また

研究部長として現在進めてい

る研究開発学校の礎を学校の中核となつて築いてください

れ、健康教育学を土台とし、子どもが遊びや仲間との交流を通じて育つしていく様子を研究され、その後は指導者となりました。

今後は開智国際大学で、将来の先生の育成に励まれるとのこと、今後の活躍をお祈りいたします。

▽鴻巣 敬先生

平成三十年度に本校に赴任され、四年間在職されました。

子どもからは「こうすん」という愛称で親しまれています。情報教育が専門です。小

学校でもプログラミング的思考を指導することになりました。

学校でもプログラミング的思考を指導するようになりました。

さらに国の施策としてGIGAスクール構想が進む中、

ICT機器の整備、ICT機器を活用した学習のあり方に

ついても本校の中核となつて進めてくださいました。

今後は、兄弟校の東京学芸大学附属竹早小学校での活躍をお祈りいたします。



二〇二一年度の同窓会

幹事長 森 昭彦

なかなか収まらないコロナの影響で同窓会活動も思うに任せない状態が続いています。活動の現状をお知らせいたします。

同窓会員数は七月十日現在で一万一五八名、そのうち住所がわかつている方（会報発送対象者数）が七一九九名と、約七割の方の住所が登録されています。

◆同窓会名簿の発行について

二〇二二年版同窓会名簿の発行のために、昨年暮れに名簿調査票をお送りし、約二〇〇〇名の方からご返事をいただきました。ご協力どうもありがとうございました。データの入力は、外部への委託やアルバイトなどに頼らず、常任幹事のみの手により行い、情報保全に努めました。この入力データにより名簿データベースを更新し、新たな名簿を作成いたしました。

あるいは同封された一筆箋や返送された調査票の余白に、別稿にもあるように、小学

付箋に同窓会へのお礼や励ましの言葉を見つけたり、また、

ご本人逝去のご報告に加え、故人が会報「藤棚」をいつも楽しみにしておられた、とのご遺族の添え書きを見つけたりすると、同窓会を運営している甲斐があつたと感じるところがあります。

◆幹事会について

引き続くコロナ禍の下、幹事会を開催すべきではないと

し、同窓会規約の特例事項に基づき、昨年に引き続き今年も開催を取り止めました。会

計報告については常任幹事会に報告され、会計監事の承認を得たものを、本号の「藤棚」に掲載しております。

◆学校への協力について

小学校は四年後に創立五〇周年を迎えます。同窓会としても、学校の周年行事に積極的に協力すべく検討を始めています。

別稿にもあるように、小学

校ではラボラトリーや探求型の活動に力を入れています。先生方が十六の研究室(ラボ)を開き、子供たちが興味を持った研究室に入つて自分の知りたいことを学ぶという活動です。

子供たちの希望する研究テーマによつては、先生方だけでは対応しきれないことがあります。そのような時に、同窓生の中には適切に答えられる専門家がおられるであろうと思ひますので、学校とそ

れらの方々とを結びつけることにより、ラボ活動に協力していこうと思います。

◆青山師範、青山師範附属小学校の記念碑

東京学芸大学の前身である東京府青山師範学校、および本校の前身である東京府青山師範附属小学校の記念碑を存知でしょうか。



この記念碑は、青山師範学校、同附属小学校の同窓生の皆様が、一九六二年に旧青山師範学校の正門の位置（設置時は港区立青山児童館の敷地内）に建立されたものです。記念碑は建立後、港区に寄贈され、維持管理を港区にお願いしていました。

同窓会としては、附小のルーツの一角を示す記念碑でもあります。日本の教育史において重要な役割を果たした青山師範の記念碑で、教育史上も重要な価値を持つものと考え、是非保存してほしいと港区に申し出ました。保存にあつては、できる限り現在位置（即ち、旧師範学校の正門跡）に近くになるよう、要望しているところです。

この原稿を書いている段階では、まだURとは連絡がとれていません。もし同窓生の中に、UR関係の方がおられるなら、お力添えをお願いしたいところです。

学校附属小学校への校名変更を挟んで、一九三六年（昭和十一年）に世田谷区下馬に移転するまでの三十六年間、青山の地にありました。

この記念碑は、青山師範学校、同附属小学校の同窓生の皆様が、一九六二年に旧青山師範学校の正門の位置（設置時は港区立青山児童館の敷地内）に建立されたものです。記念碑は建立後、港区に寄贈され、維持管理を港区にお願いしていました。

この度、児童館の敷地を含むこの地区一帯がUR（都市再生機構）による大規模な再開発の対象となり、記念碑をどうしたらよいか港区から相談がありました。建立の主体となつたのは師範学校同窓会でしたが、師範学校同窓会は既に解散しているため、学芸大学の大学史資料室から、建立に関わったわが青山附属同窓会に対応を任せられた次第です。

学級通信で振り返る附小での学びの日々

元教諭 松山 武士



私は昭和四十八年四月から六十年三月までの十二年間附属世田谷小学校に勤務しました。退任して三十七年の月日が流れますが、私の心の拠りどころは附小で過ごした日々にあります。良き師・よき子供たちとの出会いは、かけがえのないものです。

本稿は附小での子供たちとの学びの日々をその日々に綴った学級通信で振り返ることにします。

『○』の時間

私が着任した昭和四十八年は、附小が『○』の時間という教育課程の新領域開発研究に着手した年でした。

この研究を推進した次山信男研究部長は、『○』の時間を、

「教師の人間性で子どもの人間性を陶冶することを目的とする」とし、「子どもが生きること・教師も生きること・継続性があること・個と集団の相互作用がみどれるもの」を活

用」と定義していました。この人形劇に取り組んだ五年生のY子の学習感想です。

「巣立ちの歌」という劇は、ある心ない子をその子のために一生懸命かばう子が変えていくというとても友情のこもった劇です。



私は子供たちが自分自身をしっかりと見つめ、自分の課題を主体的に追究できる時間にしたいと考え、人形劇づくりに取り組みました。人形劇は集団のアソサンブルであり、一人一人がもつている良さを發揮し合い、集団として一つにまとまつていい作業の結果が人形劇だと思うからです。

昭和五十一年三月十日、附小は創立百周年記念式典を行しました。式典に先立ち、「人形劇」を当時の皇太子・同妃殿下にご覧いただきました。写真は、「人形劇」をご覧になっている両殿下です。

劇に表現された美しい世界、人々の願いを、それを上演するプロセスの中で自分の問題として捉え、劇での自分のせりふが日常の自分となるようになります。私は子供たちが自分自身をしっかりと見つめ、自分の課題を主体的に追究できる時間にしたいと考え、人形劇づくりに取り組みました。人形劇は集団のアソサンブルであり、一人一人がもつている良さを發揮し合い、集団として一つにまとまつていい作業の結果が人形劇だと思うからです。

この劇の作者は「本当の友達というのは、こうなんだよ。心と心が結び合ってこそ、本物なんだよ」と言いたいのだと思います。私たちの学級だといいな。こんな学級にしていただきたいな。(Y子)

主体的・相互啓発的な学習観を育てる授業づくり

昭和五十五年、研究部長を拝命した私は、次山先生が提唱された「個と集団の相互作用」の理論を受け継ぎ、「相互啓発的な学習観の育成」を主題にして研究を進めました。

「子供たち一人一人の個性や創造性を伸ばすには、子供たち自らが、今の自分は仲間とのかかわり合いの中で常に変化させられ、発展していくものになります。

昭和五十一年三月十日、附小は創立百周年記念式典を行いました。式典に先立ち、「人形劇」を当時の皇太子・同妃殿下にご覧いただきました。写真は、「人形劇」をご覧になっている両殿下です。

この理念は令和二年度から全面実施された新教育課程の基本方針である「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の方向性と軌を一にするものであり、附小の研究の先見性を示すものであると自負しています。

この理念は令和二年度から全面実施された新教育課程の基本方針である「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の方向性と軌を一にするものであり、附小の研究の先見性を示すものであると自負しています。

この人形劇に取り組んだ五年生のY子の学習感想です。

私の研究教科である算数科では、学習中の子供たちの学び合いの様相を捉えるために「学習感想」を導入しました。算数のノートに数や式のほかに、学習中の自分の思いを文

章で綴るようにしたのです。

次に紹介するのは、三年生のNさんの「わり算」学習時の学習感想です。

今日の問題の式を $4 \times \square = 24$ と書きました。

何人かの人が $\square \times 4 = 24$ なので、 $4 \times \square = 24$ の方が間違っている気がして学習問題を何回も読みなおし、私の方

が正しいと思いました。けれども、Kさんの意見を聞いて私はびっくりしました。

ずっと $4 \times \square = 24$ の方が正しいと思っていたのに、Kさんの考えを聞いていると、そちらの方が正しいような気がしてきたからです。どうやって考えていけばいいのか、まよつています。(N子)

Nさんは、仲間との学び合いを通して新たな課題を自覚していることが分かります。

この「学習感想」は、東京書籍の算数の教科書で紹介され、現在も多くの小学校で子供たちが学習感想に取り組んでいます。

可能性を求めて

元教諭 菅原 節生

「附属小」にはそれぞれの年代で特徴的な教育実践が展開されており、記録をひもとけば、その歴史を概観することができる。ここでは、やや薄れた記憶をたよりにその一端を思い起こしてみたい。

私が附属に在職したのは昭和四十八年度から六十三年度までの十六年間である。着任直前の六年間を過ごした東京都の公立校二校との際だった違いは、学級毎に企画して発表する「劇の会」や「作品展」。それに夏の「千倉での遠泳」（五、六年）、「燕岳登山」（六年）であった。どれにも相当の力が入っており、遠泳や登山の実施に至るまでは周到な計画と準備があり、児童個々の健康チェックとそれに応じた対策が施されていたことを知っている卒業生は少ないではあるまい。このように述べると「行事に生きた学校」と捉えらのがちだが、とんでもない。



本校の教官は、私はともかく、それぞれの教科の実践研究者だったのだ。小学校ではあるが、どの教科にも研究準備室があり、教員個々の事務机はそこに置かれていた。

赴任して間もない頃、午後八時より教科会議が行われた。翌日、「本校の勤務時間はどう

當時の研究部長（学校としての研究テーマを定め、推進する役）の次山先生のリード

なっているのか」と教科主任に尋ねたところ、彼は私の顔をしげしげと見て「今まで、

そういうことを聞かれたことはなかつた」と言われた。

あるとき、学校教育のあり方についての話し合いの中で浮上してきたことのひとつに、教科の枠組みでは十分な学習活動が展開できないが、時間

の保証があれば思い切った取り組みができる」ということがあった。

この願いがほぼ共通のものになった頃を見計らい、各教科の持ち時間を少しずつ提供し、新たに学級裁量の時間を各週に四時間ずつ設けることとなつた（学習指導要領の遵守が求められる一般公立校では不可能だが、いわゆる先導的試行が認められている本校では可能）。時間割表には、教科名の代わりに、「補」の字を○で囲んだ記号を用い、「マルホ」と呼ぶことにした。

このことが先生方の背中を押し、ある自覚を促したことは言うまでもない。

目に見える活動の一端を紹介すると、野菜作り、古代住居作り、長編児童文学の読破をめぐる活動、劇作り、文集作り、「演奏」作り、トーナメント試合などがあつた。

しばらくしてマルホの「補」の字がとれ、「マルノジカン」と呼ぶようになつて、いたが、あるとき正式な名称を付けようということになつた。様々

な意見からは、各先生方の重きの置き所が分かつておもしろかった。当時、研究部の末席を汚していた私のほか数人は「マルノジカン」がよいと

あること。相互啓発が可能なこと、などである。

先生方は「自分の学級のマルホの時間を、これらの活動の要件に照らしながら少しずつそのあり方に工夫を加えては「附属」でこそ可能な取り組みであった。

この取り組みについて、本校は「子どもが生き、教師も生きる『○の時間』」という名の図書をまとめ、世に問うている。これを機に「学級裁量」の話題が頻出するようになつた。

その後、教育界では、「学年裁量」、「学校裁量」という言葉が使われるようになつたが、発端は附属の取り組みにあつたようと思つていて。（記憶違いがあるかも知れません。請御批正。）

主張した。結果はそうなり、表記は『○の時間』となつた。この時間は正に学級裁量の時間であり、教育活動を創造できることができることが先生方を生き生きさせていたと思われる。これは「附属」でこそ可能な取り組みであった。



2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日)青山附属同窓会 会計報告

2. 経常会計(単位:円)

収入	金額	支出	金額
前年度より繰り越し	11,916,876	2021藤棚印刷費	475,640
		名簿印刷費	295,760
収入	5,479,655		
		回線使用料	75,515
銀行利息	105	データ管理費	182,820
		事務手数料	381,000
		2021藤棚・名簿発送費	839,224
		通信費	25,250
		事務用品費	2,420
		慶弔費(弔事・卒業祝)	0
		交際費	7,884
		会議費	0
2020年度収入合計	5,479,760	交通費	0
		振込手数料	66,699
		会費返金 0名分	0
		本年度支出計	2,352,212
		次年度へ繰越	15,044,424
合計	17,396,636	合計	17,396,636

1. 同窓会基金(単位:円)

収入	金額
前年度より繰り越し	3,304,469
銀行利息	276
証明書手数料	550
合計	3,304,195

3. 資産の部(単位:円)

明細	金額
同窓会基金分	
三菱UFJ信託銀行	合計 3,304,195
経常会計分	
三井住友銀行通知預金	1,500,000
三井住友銀行定期預金	3,024,038
三井住友銀行普通預金	6,734,694
ゆうちょ銀行総合口座	1,205,164
ゆうちょ銀行振替口座	2,385,410
現金	195,118
合計	15,044,424
基金+経常会計合計	18,348,619

会計監査承認 会計監事 一力健一郎 松本洋典

前回の名簿発行から5年が経ち、新しい名簿をお届けすることとなりました。名簿は会費納入者のうち昨年の調査票で希望された方を対象に、会報と一緒にお届けしました。

ご健在の同窓生約1万名のうち、7千名を超える方の住所が判明しています。精度の高い名簿は、クラス会の開催などの際、お役立ていただいていると思います。

クラス会など、同窓生をつなぐすべての活動の基礎となるのが名簿です。今後ともご理解とご協力をお願ひします。

※会費納入がまだの方は払込票を同封していますのでご協力ください。名簿はご希望の方に、在庫がある限りお送りします。

(常任幹事・野口尚志)

前回の名簿発行から5年が経ち、新しい名簿をお届けすることとなりました。名簿は会費納入者のうち昨年の調査票で希望された方を対象に、会報と一緒にお届けしました。

ご健在の同窓生約1万名のうち、7千名を超える方の住所が判明しています。精度の高い名簿は、クラス会の開催などの際、お役立ていただいていると思います。

クラス会など、同窓生をつなぐすべての活動の基礎となるのが名簿です。今後ともご理解とご協力をお願ひします。

※会費納入がまだの方は払込票を同封していますのでご協力ください。名簿はご希望の方に、在庫がある限りお送りします。

名簿の発行について

中止のお知らせ

コロナ禍をふまえ、六月に予定していた幹事会の開催を

中止しました。

また、昨秋から延期されていた懇親会についても、今年度の開催は中止といった

今年度の開催は中止といった

元校長・廣井力先生(一九八四年四月～一九八八年三月在職)が、二〇二二年六月にご逝去されました(享年九十七歳)。

先生は彫刻家でもあり、また風の研究でも知られています。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

訃報

同窓会 Facebook

同窓会のFacebook グループを立ち上げました。

Facebook 上で [青山附属] と検索してみてください

<https://www.facebook.com/groups/aoyama.dosokai/>

クラス会開催の報告記事を募集しています。「千倉に行ってきましたよ！」

といった報告や、写真のみの掲載も大歓迎です。

ご一報、お待ちしています。✉ aoyama-dosokai@edit.ne.jp

◆ 本年度の同窓会役員

会長 庭山正一郎(昭和三三年)
 幹事長 森 昭彦(〃三〇年)
 会計監事 一力健一郎(〃五〇年)

常任幹事 小野聖穂(昭和二九年)
 松本洋典(平成八年)

岡市典子(〃五三年)
 幣原 廣(〃三七年)

小林哲子(〃五四四年)
 齊藤研一(〃五四年)

野口尚志(〃六三年)
 斎藤研一(〃五四四年)

山本剛久(平成六年)
 山本剛久(平成六年)

瓶子可南子(〃八八年)
 日野真毅(〃二五年)